

第75回地域農林経済学会大会（島根大学大会）のご案内＝第1報＝

2025年6月25日
地域農林経済学会

第75回大会を島根大学との共催により、下記の要領で開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

1. 期 日 2025年11月1日（土）～11月2日（日）

2. 日程および会場

2-1. 開催地 島根大学 松江キャンパス

住 所 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

連絡先 森 佳子 E-mail: yomori@life.shimane-u.ac.jp

保永 展利 E-mail: nyasunaga@life.shimane-u.ac.jp

中間由紀子 E-mail: nakama@life.shimane-u.ac.jp

★ オンライン配信について

国際シンポジウムについては、Zoomによるリアルタイムオンライン配信を予定しています。総会、理事会他は現地のみにて開催します。

2-2. 全体プログラム（予定：確定版は 大会案内第2報 にて確認ください）

【第1日】11月1日（土）個別報告・大会シンポジウム・総会

- 個別報告 [9:00～12:00] (生物資源科学部3号館・受付8:30～)
- 会長講演 [13:00～13:15] (大会シンポジウム内)
- 大会シンポジウム [13:00～17:00] (大学ホール)
- 総会 [17:00～18:00] (大学ホール)
- 懇親会 [TBA] (生協第2食堂 [ニコラ] 2階)

【第2日】11月2日（日）個別報告・国際シンポジウム

- 個別報告 [9:00～16:00] (昼休憩を含む)
(生物資源科学部3号館・受付8:30～)
- 国際シンポジウム [10:00～12:30] (大学ホール)
- 特別企画 [12:30～13:30] (大学ホール)

【その他】10月31日（金）

編集委員会 [17:00～18:00] (未定)

理事会 [18:00～20:00] (未定)

11月1日（土）

大会シンポジウム打合せ [12:00～13:00] (教養講義室棟1号館101教室)

個別報告優秀賞

打ち合わせ会議 [8:30～ 8:50] (生物資源科学部3号館208講義室)

審査委員会 [12:10～12:50] (生物資源科学部3号館208教室)

新理事会 [18:00～18:30] (未定)

11月2日（日）

国際シンポジウム打合せ [9:00～10:00] (教養講義室棟1号館101教室)

2-3. 参加費

現地参加の場合

大会参加費（不課税）：普通会员（地域農林経済学会）	5,000 円
非会員	6,000 円
学生（会員資格を問わず）	1,000 円
懇親会費（予価・税込）：普通会员	6,300 円
学生会員	3,200 円

オンライン参加の場合

国際シンポジウム（zoom meeting）：無料

■会員価格の適用について

- ・会員価格を適用するには、2025 年度の年会費納入が必要です。
- ・年会費は、以下の会員専用ページからクレジットカードでお支払いが可能です。
オンライン会員情報管理システム（Clara）：<https://clara-nacos.com/arfe/login>

■大会参加費・懇親会費のお支払いについて

- ・大会参加費および懇親会費は、事前にクレジットカードでのお支払いが可能です。
- ・以下の「大会・懇親会参加申し込みフォーム」からお申込みください。
なお、クレジットカード決済に関するご案内は、申込締切後にメールで送付されます。

※メール受信に関するご注意※

- ・メール本文に決済情報が記載されます。不達の場合、決済ができませんので、申込時にメールアドレスを正しくご入力ください。
- ・オンライン会員情報管理システムにご登録いただいているメールアドレスも誤りがないかご確認ください。

2-4. 大会および懇親会参加の申し込み

現地会場において大会および懇親会に参加される方は、以下のフォームから期日までに申し込みをお願いいたします。

大会・懇親会参加申し込み（締め切り日時：10/24（金）23:59）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/bd23a4e788440>



2-5. 個別報告等の申し込み、各問合せ先に関して（地域農林経済学会会員に限る）

受け付けフォーム（個別報告・個別報告用プレゼンファイル・個別報告論文予稿）が公開されました。各サイトの申込フォームから期日までに申し込みをお願いいたします。

個別報告申し込みおよび要旨提出（締め切り日時：8/22（金）23:59）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/ebc136a9173043>

個別報告用プレゼンファイル（PDF）の提出（締め切り日時：10/24（金）23:59）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/9b6f3b99173045>

個別報告論文予稿の提出（締め切り日時：10/24（金）23:59）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/2e5e7cff173044>

※詳細・各パスワードは、【申込要領】を参照ください。

個別報告申し込み、個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

arafe-plan2025-ml@fcu.ac.jp

地域農林経済学会企画担当理事

個別報告論文予稿に関する問い合わせ先

editors-arfe@nacos.com

地域農林経済学会常任編集委員会

2-6. 特別セッションの申し込みに関して（地域農林経済学会会員に限る）

本大会では、特別セッションを募集いたします。特定のテーマや研究手法に関して研究者間において議論を行う事を目的としたものです。プログラムは個別報告のスケジュールとともに編成いたします。特別セッションの申し込みを希望される場合には、代表者による申し込みと、タイトル・座長・報告者を明記した特別セッションの要旨の提出をお願いします。受け付けフォームと締め切り日時は以下のとおりです。

特別セッション申し込みおよび要旨提出 (締め切り日時: 8/22 (金) 23:59)

URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/584837a6243766> PW【20250822】

- ★ 特別セッション要旨のフォーマットについては、個別報告のものに準じます。詳しくは学会企画担当理事 (arafe-plan2025-ml@fcu.ac.jp) にご連絡ください。

3. 大会シンポジウム

11月1日(土) [13:00~17:00]

第75回, 76回大会統一テーマ

「食料を人々に届ける：地域農林業研究の新たな課題」

第75回大会シンポジウムテーマ

「食料は人々に届いているか：地域農林業研究の新たな課題」

第75回および第76回大会では、統一テーマとして「食料を人々に届ける」という食料関連産業本来の機能について考えるテーマを設定している。改正食料・農業・農村基本法の目的に掲げられた、食料安全保障の確保とは「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態」である。今年度大会では、「国民一人一人がこれを入手できる状態」に着目し、フードチェーンの川下における現状を把握し、課題を共有する。

座長：清原昭子（福山市立大学 都市経営学部）

第1報告「都市部における食料品アクセス・食生活状態と格差」（仮）

上田遥（東京大学）

第2報告「中山間地域における食料品アクセスの現状と課題」（仮）

高橋克也（東洋大学）・玉木志穂・丸山優樹（農林水産政策研究所）

第3報告「食品小売・サービス企業の店舗戦略と社会インフラ機能の展望」（仮）

木立真直（中央大学）

4. 個別報告

11月1日(土) [9:00 ~ 12:00] (個別報告優秀賞対象報告を含む)

11月2日(日) [9:00 ~ 16:00]

両日ともに、終了時刻は変更することがあります。

- 1) 報告は1件につき、30分（報告20分、質疑応答10分）を予定しています。
- 2) 同一筆頭報告者による報告は一報告に限ります。
- 3) 共同報告の場合は、原則として、筆頭報告者が報告しなければなりません。
- 4) 個別報告の申込方法、個別報告論文投稿等については【申込要領】1・2を参照願います。
- 5) 個別報告優秀賞は、大会時点（2025年11月1日）で37歳未満の若手会員が対象です。個別報告優秀賞応募の方法については、【申込要領】3を参照願います。

5. 国際シンポジウム 11月2日(日) [10:00~12:30]

**2025 International Symposium of
the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics
sponsored by the Japanese Society of Organic Agriculture Science**

**Financialization of the Food System:
Contextualization in Japan and Developing a Research Agenda**

「フードシステムの金融化：日本における概念の整理と研究課題の合意に向けて」

座長：FEUER Hart N (京都大学)

司会：草処 基 (東京農工大学), KEENI Minakshi (東北大学)

Concept of the Symposium

The financialization of food systems has become a defining force reshaping global agricultural production, distribution, and consumption. Beyond the broad notion of financial actors gaining influence in commodity markets, food system financialization refers to the transformation of food into a financial asset, where speculation, rent-seeking, and financial engineering shape prices, market structures, and food security outcomes. This process manifests in several ways, including speculative trading in agricultural futures and derivatives, the increasing role of institutional investors and private equity in farmland and agribusiness, and the financial restructuring of major commodity traders.

The consequences of food financialization are far-reaching. They include heightened price volatility, opaque supply chain governance, market concentration in the hands of a few multinational traders, and growing disconnections between producers and consumers. These dynamics exacerbate food insecurity, marginalize small-scale farmers, and shift the priorities of food systems away from public goods and sustainability toward financial returns. While these issues have been extensively studied in North American and European contexts, their manifestations and impacts in Japan remain underexplored.

Notably, Japan has a unique historical relationship with food financialization, having pioneered one of the world's first formalized agricultural futures markets with the Dojima Rice Exchange in Osaka during the 18th century. However, contemporary financialization in Japan's food sector has received little scholarly attention, despite its significance in shaping domestic and international agricultural markets. Japan's role as a major importer, its evolving agrarian policies, and the financial strategies of its food corporations provide rich ground for analysis.

This symposium brings together international and Japanese scholars to critically engage with the evolving landscape of food system financialization. Key themes include: Speculation and Price Volatility (financial instruments), Market Concentration and Corporate Power, Financialization of Land and Production, and Regulation, Policy, and Alternative Models.

By situating Japan within global debates on food financialization, this symposium aims to advance theoretical frameworks, generate new empirical insights, and foster dialogue on policy alternatives. In doing so, it seeks to contribute to both academic discourse and practical responses to the challenges posed by financialization in food systems.

Symposium Organizers: Executive Board Members for Internationalization of the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

Dr. TAKASHINO Nina (Ritsumeikan University)
Dr. KEENI Minakshi (Tohoku University)
Dr. KUSADOKORO Motoi (Tokyo University of Agriculture and Technology)
Dr. FEUER Hart N. (Kyoto University)

Welcome Address: Dr. TAKETOSHI Kazuki (President of ARAFE)

Opening Remarks: Dr. FEUER Hart N. (Kyoto University)

Presentation 1: Government financial support for dominant meat processors and the global concentration of agrifood power. (tentative)

Dr. Philip Howard (Michigan State University)

Presentation 2: New forms of food systems financialization(tentative)

Dr. Loka Ashwood (University of Kentucky)

Presentation 3: The rice price linkage between Tokyo and Taipei during the 1930s: The consequences of rice futures trading through a historical lens. (tentative)

Dr. MAEDA Kiyotaka (Keio University)

Commentators: Dr. HIRAGA Midori (Kyoto Tachibana University)

Dr. YAGI Kohei (Kobe University)

Closing Remarks: Dr. MAHARJAN Keshav Lall (Vice president of ARAFE)

なお、質疑応答では日本語でも行うことができます。

6. その他連絡事項

(1) 宿泊について

事務局では斡旋いたしません。各自でご予約ください。観光シーズンなので早めに予約をされることをお勧めします。

(2) 昼食について

11月1日（土）は、生協食堂が営業しておりますのでご利用下さい（11月2日〔日〕は休業）。近隣にはコンビニが3軒、ファミリーレストランなどの飲食店があります。
弁当販売はいたしませんのでご注意ください。

(3) 大会期間中の保育／託児室設置について

今大会では、お子様同伴で参加を予定される会員のために、有償で利用可能な保育室の設置を予定しています。保育室の利用をご希望の方は、必ず8月22日（金）までに、下記の申し込み先へお子様の年齢・人数と利用日時をお知らせいただいでお申込ください。

事前の申し込みがあった場合にのみ、保育時間の設定も含めて、保育室と保育係を準備いたします。なお、個人負担額は1日：5,000円、半日：3,000円です。

申し込み先：大会事務局 森 佳子（E-mail：yomori@life.shimane-u.ac.jp）

【申込要領】

各申し込みの先の URL・提出期限および連絡先一覧

個別報告申し込みおよび要旨提出	(締め切り日時：8/22 (金) 23:59)
URL: https://business.form-mailer.jp/fms/ebc136a9173043	パスワード【20250822】
個別報告で用いるプレゼンファイル (PDF) の提出	(締め切り日時：10/24 (金) 23:59)
URL : https://business.form-mailer.jp/fms/9b6f3b99173045	パスワード【20251024】
個別報告論文予稿の提出	(締め切り日時：10/24 (金) 23:59)
URL : https://business.form-mailer.jp/fms/2e5e7cff173044	パスワード【20251024】

個別報告申し込み、プレゼンファイル提出、個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先
arafe-plan2025-ml@fcu.ac.jp 地域農林経済学会企画担当理事
個別報告論文予稿に関する問い合わせ先
editors-arfe@nacoss.com 地域農林経済学会常任編集委員会

1. 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法等に関して

(1) 個別報告の要旨原稿の様式

1. 要旨原稿のフォーマットは、学会ウェブサイト (<https://a-rafe.org/>) の「学会誌」にある個別報告要旨様式 (作成要領・見本) を参照してください。
2. 要旨原稿は、Wordで作成したファイルを、必ずPDFファイルに変換してください (A4版：1枚)。ファイル名は、下記の事例を参照してください。

例) (単独の場合) ○○大学・農経花子.pdf (複数の場合) ○○大学・農経花子他.pdf

また、所属機関の書き方は、下記の事例を参照してください。

例) (社会人の場合) ○○大学, ○○研究所, (大学院生の場合) ○○大学大学院
(学部学生の場合) ○○大学△△学部, (日振特別研究員の場合) 学振特別研究員・○○大学

★ 個別報告要旨は学会ウェブサイトにアップロードします。

(2) 個別報告の申し込み方法

1. 申し込みおよび要旨原稿 (PDFファイル) の提出は、上記URLから行ってください。
2. フォームの「IX個別報告要旨のファイル (PDFに限る) を添付してください。」の欄では、参照ボタンをクリックし、要旨原稿ファイルを選択してください。
3. 「送信する」のボタンを押した後、返信メールが、連絡先メールアドレスに送られる仕組みになっています。数時間たっても連絡先メールアドレスに、受付完了のメールが届かない場合には、再度申請をお願いいたします。
4. 「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」入力に関しての質問は、電話では一切受け付けません。また、入力ミスへの修正対応はできません。
5. 筆頭報告者には、地域農林経済学会会員の資格および2025年度の年会費 (過去の未納分も含む) の支払いが必要です。非会員の方には、個別報告の申込期限 (8月22日) までに、入会手続き (入会金と年会費の納入) をお願いします。年会費の納入は、クレジットカードでのお支払いも可能です。以下のページからお手続きください。

オンライン会員情報管理システム (Clara) : <https://clara-nacos.com/arfe/login>

(3) 個別報告で使用するプレゼンテーションファイル等に関して

1. 個別報告でPDF ファイルをプレゼンテーションに使用する場合

☆ プレゼンファイルは、PDFのみです。PowerPointなどで資料を作成される場合は、必ずPDFファイルに変換をしてください。

- ① 個別報告会場に備え付けのプロジェクトターと PC (OS は Windows) で報告していただきます。持ち込み PC、タブレット、OHP 等は利用できません。

- ② プレゼンファイルは、10月24日（金）23時59分までに、上記URLから提出してください。締め切り以降は受け付けません。また、当日のファイルの差し替え等も受け付けることはできません。会場でのPC使用の便宜のため、PDFファイルには、下記のように名前を付けてください。

例) 第3会場の第6報告の場合

(単独の場合) 0306p・農経花子.pdf (複数の場合) 0306p・農経花子他.pdf

- ③ ファイルの容量の上限は3MBです。3MBを超えるファイルは受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するなど工夫してください。

2. 個別報告で紙媒体を用いる場合

聴講者数分の部数を用意して、当日報告会場に持参してください(事務局では印刷は行いません)。

2. 個別報告論文としての投稿に関して

1. 個別報告でPDFファイルをプレゼンテーションに使用する場合

2. 大会終了後に個別報告の内容を「個別報告論文」として『農林業問題研究』に投稿する予定がある場合には、「個別報告論文投稿要領」（学会ウェブサイトに掲載）の2に従って、「個別報告論文予稿」を作成ください。なお、「個別報告論文予稿」を作成する際には、学会ウェブサイトに掲載されている「個別報告論文テンプレート」を必ず用いるとともに、8ページ以内に収まるようにしてください。

3. 作成した「個別報告論文予稿」は、10月24日（金）23時59分までに上記URLから提出してください（PDFファイルに変換のこと）。

なお、学会ウェブサイトの「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」からも上記URLにリンクしていますので、そちらから利用して頂くことも出来ます。

- ★ 「個別報告論文予稿」を上記提出先に期限までに提出しない場合、個別報告論文の投稿が認められませんので、注意してください。

4. 個別報告論文予稿のPDFファイルには、下記のように名前を付けてください。

例) 第3会場の第6報告の場合

(単独の場合) 0306・農経花子.pdf (複数の場合) 0306・農経花子他.pdf

5. ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するなど工夫してください。

6. 大会終了後に提出して頂くことになる個別報告論文の投稿方法・締め切り等については、大会前に常任編集委員会から投稿案内がメールにて送付される予定です（学会ウェブサイトでも告知します）。個別報告論文の書き方・提出方法等については、学会ウェブサイトに掲載される「個別報告論文テンプレートファイル」および「個別報告論文投稿要領」に従ってください。

7. 連名報告での報告者の順番と、個別報告論文での執筆者の順番は、同じでなければなりませんので、ご注意ください。

3. 個別報告優秀賞の応募方法について

個別報告優秀賞に応募される方は、「個別報告論文予稿」の提出が必須です。「個別報告論文予稿」の提出がない場合には、審査の対象になりません。

個別報告を申し込まれる際に、「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」の以下の3項目に必要事項を記入し送信してください。

- 【Ⅷ個別報告優秀賞への応募を希望しますか？】
- 【「はい」と希望した場合には、2025年11月1日時点での筆頭報告者の年齢を入力してください。】
- 【今回の応募は、研究論文等として投稿中の研究ではありませんね？】

なお、個別報告優秀賞へ応募できるのは、筆頭報告者の年齢が大会初日の時点で37歳未満の場合です。また、すでに研究論文等として投稿中の研究は応募できません。ご注意ください。